



市町村のまちづくり

常陸大宮駅周辺のまちづくり

常陸大宮市建設部駅周辺整備推進課 主幹 金子 功治

経緯と背景

常陸大宮駅は、常陸大宮市内にあるJR水郡線6駅のうち最も南に位置し、本市の玄関口・中心市街地として地域経済の発展に寄与してきました。

常陸大宮駅周辺区域は、JR水郡線常陸大宮駅前の地元商店街や駅北側の医療・福祉機能、駅西側の市役所や文化センターなどの行政機能、国道118号バイパスの沿道型商業・業務機能及び住宅機能を含む区域であり、「常陸大宮市総合計画」において、都市中心拠点として基盤施設及び景観の整備を図り、魅力ある市街地を形成していくことが位置付けられています。

しかし、駅周辺については、狭あい道路、老朽化した木造住宅が多く、防災面での危険性が高いこと、さらに、通勤通学の送迎時における交通渋滞などが課題となっており、市街地環境の改善や利便性の向上と安全・安心な居住環境の整備が求められています。

これらの課題を解決するため、「常陸大宮駅周辺整備基本計画」（平成28年度）、具体的な整備内容を定めた「常陸大宮駅周辺整備計画」（令和元年度）を策定し、市の重要施策として、検討を行ってきました。

令和3年度からは国の補助事業である都市構造再編集中支援事業を活用し、整備を進めています。

都市構造再編集中支援事業について

都市構造再編集中支援事業とは、立地適正化計画に基づき、都市再生整備計画に位置付けられた事業に対しての個別支援制度であり、各都市が持続可能で強靱な都市構造へ再編を図ることを目的とするものです。

- 事業区域 常陸大宮駅周辺地区
- 面積 96.0ha（都市機能誘導区域内）
- 事業期間 令和3年度から令和7年度まで（5年間）
- 基幹事業
 - ・常陸大宮駅東口・西口駅前広場整備
 - ・駅舎・東西自由通路整備
 - ・常陸大宮駅西交流拠点整備
 - ・周辺道路整備

東西駅前広場について

東口駅前広場は、狭小なロータリーと駐車スペースの

不足などから、朝夕の交通渋滞が発生しております。これらの課題を解決し、安全性を確保するため、東口駅前広場の整備に加え新たに西口駅前広場を整備することにより、これまで東口に集中していた交通の分散による渋滞の解消、高速バスの乗り入れによる交通結節機能の強化が見込まれています。



駅周辺整備イメージ

駅舎・東西自由通路について

新たに西口駅前広場を整備するにあたり、駅東西を結ぶ自由通路を整備することにより、市街地の分断を解消し、東西の連携を図ります。

常陸大宮駅の南に位置する跨線橋はバリアフリー非対応であり、また、現駅舎は乗車時に構内踏切を渡る必要があるなど利用者に不便を強いています。今回、駅舎とともにエレベーター付きの東西自由通路を整備することにより、バリアフリーに対応し、安全性・利便性の向上が期待されます。



駅舎・自由通路イメージ



■ 駅西交流拠点

西口駅前広場の整備と並行して、広場隣接地に子育て支援や多世代の市民交流の場となる駅西交流拠点の整備を計画しています。駅西交流拠点は、主に近隣住民及び子育て世代を対象とした公園として「にぎわいの創出」、「インクルーシブ・パーク」、「防災機能の充実」を整備コンセプトとして設定し、想定される施設機能について、検討を行いました。

施設の検討にあたっては、若者の幅広い意見を反映させるため、大学生、市内高校生・中学生、学識経験者や関係団体職員等で構成された、「常陸大宮駅西交流拠点基本計画策定委員会」において議論を重ね、民間事業者とのサウンディング型市場調査、市民参加のワークショップやアンケートを実施し、整備を進めています。



市民ワークショップの様子

■ 駅西交流拠点計画地社会実験

12月10日（金）・11日（土）・18日（土）に、常陸大宮駅西口交流拠点計画地において、整備後の公園を想定し、「交流拠点のコンセプトに基づく公園の体験」、「防犯に配慮した安心・安全な明るい公園の体験」を目的とした社会実験を、昼の部・夜の部に分けて実施しました。

実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策に注意を払いながら、3日間で1,500人以上が参加しました。

当日は、インクルーシブ遊具体験、キッチンカーの出店、学生によるワークショップの開催、防災設備の展示・体験や夜間照明に対する照度実験などを実施しました。

アンケートでは、社会実験に対する好意的な意見や、安全面への配慮、周辺環境への騒音・照明の配慮など様々な意見をいただきました。特に、インクルーシブ遊具の設置及びキッチンカーの出店を望む意見が多数を占め、公園整備が求められていることを感じることができました。



インクルーシブ遊具体験

■ 官民連携によるまちづくり

常陸大宮駅周辺整備にあたり、事業区域内で㈱ノーブルホームが進める宅地分譲開発と市が進める道路計画の調整を図り、相互に協力・連携し、開発を実施する協定を締結しました。

この協定により、市が開発区域内の市道・上下水道施設を整備し、事業者が宅地分譲開発を実施することによって、常陸大宮駅周辺地域の道路ネットワークの形成による安全性・防災性の向上、民間の住宅開発による人口増加が期待されています。



協定締結の様子

■ 今後の展開

全国的な問題でもある人口減少と高齢化が急速に進行していくなか、安心できる生活環境の確保、持続可能な都市運営が求められています。

本市でも、昨年度立地適正化計画を策定し、コンパクトシティの形成に向けてまちづくりに取り組んでいます。

市の中心となる常陸大宮駅周辺は、市の顔となる場所であることから、交通結節点の利便性を向上させるとともに道路ネットワークを形成し、東西の行政施設・福祉施設との回遊性を向上することで、人々の交流や賑わいの創出に繋げていくことが重要だと考えます。

引き続き、事業の完了に向けて推進していきます。